

カエルとガマの2月PPP対談

カエル・・・みなさんから、たくさんのクリスマス・カードと年賀状をいただきありがとうございました。一枚一枚でいねいうれしく読ませていただきながら、お一人おひとりの上に新年の祝福をお祈りしました。

ガマ・・・2012年、アジジのカエルさんが、新しい年明けに思っておられることは？

カエル・・・3Pを思っています。PPP、3つのPです。PACE、パーチェ・平和、PICCOLO、ピッコロ・小さく、PIANO、ピアノ・ゆっくり。これは、聖フランシスコと聖クララが大切にされたことです。聖フランシスコのT、Tの字はヘブライ語のアルファベットの最後の文字で、自分をもっとも後ろの人間でありたい、最後の列にいて人々を福音の道に後押しする人間でありたい、もっとも小さき者として、神と人に仕えたいという3Pの思いがこもっているのです。

ガマ・・・アジジに巡礼された方みなさんが、アジジには大切な何かがある・・・心がやすらぐ、心のふるさとに帰った思いがする・・・何かしらほっとする・・・必ずまたこの街にもどりたいたい・・・と言われる所以がそこにあるのですね。

カエル・・・日本のあちこちにも、3Pを生きている小さき人々がおられます。優太くんのことを覚えておられますか？「優太はなにも言わないけれど参観日には、みなさん若い親御さんばかりで・・・」と氣遣われるおじいさん、おばあさんを「・・・しかたがないじゃん・・・もっと気楽に。ぼくはおじいちゃん、おばあちゃんとしあわせ！」と元気づけ、「ぼくもがんばっているから、東北の人もがんばって！」とエールを送る4年生になった優太くん（中越地震で奇跡的に救助）。

ガマ・・・なんとたのもしいピッコロでしょう！ 東北にも分かち合いを生きる元気なピッコロがいます。3.11のあと、ベトナムの記者が被災地に入った時のこと、寒さに震えている少年に記者は自分のジャンパーを着せ掛けました。ポケットからバナナが一本ポロリと落ちたので、記者が少年にほしいか？と聞くと少年はうなずきました。バナナをもらった少年は一目散に避難所の「配給所」に届けに走ったとのこと。感動した記者がベトナムに帰り、日本にはこんな少年がいる・・・と記事にしたところ、感動が感動をよんで、支援の輪が広がっていったそうです。

カエル・・・遠藤未希さんのことも忘れられません。名前の通り希望にみちた未来に輝いている方でした。自分の命をかけて、町の方々の命の助かりを後押しされたのですね。

あの女は ^{ひと}ひとり わたしに立ち向かってきた
南三陸町役場の 防災マイクから その声はいまも響いている
わたしはあの女を ^{ひと}町ごと呑み込んでしまったが その声を消すことはできない
わたしはあの女 ^{ひと}の声を聞いている その声のなかから いのちが ^{よみがえ}甦るのを感じている
わたしはあの女 ^{ひと}の身体を呑み込んでしまったが いまもその声は わたしの底に響いている
高良留美 《その声はいまも》・・・津波を擬人化した「わたし」・・・

ガマ・・・お年を召されたピッコロもおられます。

母に縫い物を教わりました
連れあいには辛抱を教わりました
倅は詩を書くことを教えてくれました
みんな 私には役立ちました
そして今、人生の終わりに 人間のやさしさを 震災で教わったのです
生きていて よかった 柴田トヨ 《教わる》

カエル・・・3Pこそ、平和の君として世に来られた神のみ子の生き方です。2012年、生活のスピードをちょっと落とし、平和に、小さく、ゆっくり・・・自分の心と周りをみなおしたいものですね。